

丁總國三山鎮座

# 一言主神社由来

## 【一言主神とは】

当社祭神は一言主神をお祀りしてあり、別の名を事代主神とも申します。御血統は出雲の国大国主神（出雲大社）の長子であると云われています。日本の古書と云われた古事記、日本書紀には、第二十一代雄略天皇が葛城山に獵された時、面貌容姿が天皇に似た人が現れ、吾は一言主神なりと名乗られ、天皇と共に獵をされたが、一頭の鹿を逐うて矢を射るに、互いに譲り合われ、その言葉は恭格、逢仙のようであったと載せてあります。（金剛山願葛木神社、高知市土佐神社縁起）天照大神の神代の時代、鹿島神（武美加津知神）香取神（経津主神）の二神が出雲の国に天照大神の仰せによりお出掛けになり、国土を天孫（ニギノ尊）に奉獻すべきことを交渉された時、この神は美保ヶ崎に出て釣りをされて居ました。父大国主神は天鳥船神をしてお呼び還しになり、天照大神の御旨を告げ相談したところ、事代主神は直ちに従い奉るべしと一言のもとに仰せになり其処を立ち去ったと云うことです。日本古代では、萬有に靈ありと信じられ、言語も同じく、「言にはやがて生命が宿り、行となつて事を成す」とされる言霊信仰がありました。このことから、事代主神を一言主神と称するようになり言行一致の神様と云われています。つまり此の神様は何事もよく道理をわきまえ、良い事につけ、良からぬ事（心配事、病氣、災難）につけ、良く聞き分けて人々の幸福のために直ちに御利益を授け、一言の願い事でも無駄に過ぎず、祈願すべきであるとのことです。



## 【三竹山の由来】

第五十一代平城天皇の御代。大同四年（西暦八〇九年）陰曆十一月十三日、今の社殿のある辺に奇しき光現れて数夜の後に忽然と雪中に筍が生じ、三岐の竹となりました。

余りに不思議に怪しいので、村人が御祓いをし湯立の行事をいたしますと、「吾は大国葛城山（今の奈良県金剛山）の東、高宮の岡に居る一言主大神なり、今東国の万民の災禍を救わんが為に來れるなり、則ち此の三岐の竹を以て永く契りとせよ」云々と託宣せられました。

依つて村人これに驚きて其処数町の間を宮内と号して人跡を禁じ社殿を造営しお祀りしました。その後時折三岐の竹生ずるを以て境内を三竹山と称するようになりました。今尚其の時の竹を数本社蔵しています。



靈竹殿



三岐の竹

## 【境内社について】

境内には摂社として古くから福寿稻荷社と香取社が祀られています。又、からくり綱火が当社で行われる由来となった三峰社を始めとする十三社他大黒社が祀られています。



福寿稻荷社

## 【文化財、その他】

- 一、本殿（指定文化財）
- 一、からくり綱火（無形民俗文化財）
- 一、むくの木（天然記念物）
- 参道の入口にある樹齢五百年、幹周六・四mの巨樹です。
- 一、石棺（小口横石棺）
- 石棺古墳群の一部で、千百年以前のものです。

## 御神徳と信仰について

前にも述べた通り、当社祭神は一言の願い事でも疎かにせず願いを叶えて下さると云われ、御父神（大國主神）の最愛の長子で御心は英邁で慈愛に富み円満の徳を具へ大義名分の道理をわきまえた神様でありました。されば良く御父神を助けて国土を経営し、農耕漁獵の道を教えて、生活の道を開き、国利民福を計って、一般民衆を安せられ、良き政治を行いました。又御父神と共に辛苦に経営開拓され出雲の国土の平和のために、喜んで皇孫尊に率先奉獻され皇室八十神の御尾前となり国家守護神となりました。

（宮中八神殿の内の一つ）

大神は俗に恵比須神とも称へ、御父神大黒神と常に並び、福の神、運の神、商売の神、農作の神、縁結びの神、平和の神として称え奉り一般大衆の最も崇敬し、篤く信仰するところであります。平将門を始め、その子孫の相馬家等、近世では田安宗武侯及び其の子孫の領地であったので領主は毎年陰暦十一月十三日の祭日には行列を整えて参詣する習わしであったと伝えられています。そして今尚、その御利益を授かろうと茨城は勿論、県外からも数多くの崇敬者が訪れます。



大 鳥 居



## 【秋季例大祭】

新暦 九月十三日

昔は陰暦八月十三日の前後三日間執行いたしましたが、大正四年陽暦九月十三日に改正一日限りとなり現在に至っています。

当日は俗に花火祭りと言われ、天明二年（西暦一七八二年）以前から既に行われ、特殊花火行事で大賑わいしたという事が記録に残っています。以後、継続して今日に及び奉納特殊花火（からくり綱火、万燈仕掛）や獅子舞等が催され夜を徹して境内は雑踏立錫の余地ありません。



大塚戸芸能保存会  
による奉納獅子舞

## 葛城流

## からくり綱火

当社秋季例大祭に奉納されるもので綱によるカラクリ人形と仕掛け花火が結合した特殊伝統芸能です。

その起源は江戸時代前期に火の神であるという民間伝承のある他部落内三峰神社（明治四十二年当社境内に合社）開基を祝い奉納されたのが初めとされ、その後総鎮守である当社に移行したものと云われています。

現在、日本における綱火は伊奈村高岡、ならびに同村小張とここ大塚戸の三所ですが、当地は特に変化物が多い事で知られています。終戦後一時中断されましたが、昭和四十四年「大塚戸芸能保存会」結成により復活し現在に受け継がれています。



葛城流からくり綱火

### ※その他の年中行事 ※

|     |                |
|-----|----------------|
| 元旦祭 | 一月一日           |
| 春季祭 | 四月十三日（俗に植木祭）   |
| 菊花祭 | 十月二十五日、十一月二十四日 |
| 新嘗祭 | 十二月十三日         |
| 月次祭 | 毎月十三日          |

## 【社殿】

本殿（流造）

当社創建より星霜多く押しうつり、社殿破壊の状態に陥りましたが、長録三年（西暦一四五九年）当国の守谷城主 相馬弾正胤広侯（平将門の後裔）篤く此の神を崇信し、社殿を再建せられました。

拝殿

一般の寄進により慶応三年（西暦一八六七年）竣工したものです。



御本殿（指定文化財）



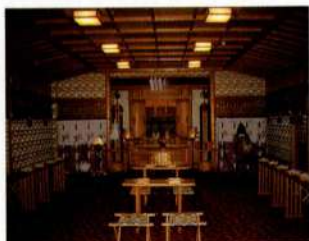
拝殿

古来社領を沢山所有して居りましたが、天文十九年（西暦一五五〇年）兵乱のため未印と楼門を失いました。然し幸いに境内老樹一つそうとして天をかすめ、今尚丈余の樹木嵯峨として古社らしい往時を忍ぶことが出来ます。

## 【その他の施設】

結婚式場（儀式殿）

大広間



一階——一〇〇畳  
二階——七〇畳  
披露宴、七五三祝い等に御利用下さい。

※ 厨房完備（有料）

会議室（有料）

会議等に御利用下さい。



一階 大広間

◎結婚式場、会議室、大広間（一階）及び別室は、全て冷暖房完備。

# 一言主神社案内図



## ◆交通のご案内（東京方面より）◆

|     |      |        |         |       |      |
|-----|------|--------|---------|-------|------|
| 電車で | 上野駅  | 40分    | 取手駅     | 30分   | 水海道駅 |
|     |      | 常磐線    |         | 常総線   |      |
| 車で  | 東京   | 三郷I.C. | 谷和原I.C. | より15分 |      |
|     | 首都高速 |        | 常磐高速    |       |      |

〒303-0045 茨城県水海道市大塚戸町 8-7-5

## 一言主神社々務所

☎ 0297 (27) 0659

FAX 0297 (27) 2815